

「本当に大切なこと」

申命記 第6章 4節～9節

説教 本庄侑子伝道師

今日お読みしている申命記は、《モーセの遺言》と呼ばれています。出エジプト後、40年に及び荒野の旅を終えて約束の地を前にしたイスラエルに対して、モーセが語った言葉です。それらは、かつて出エジプトの直後に十戒を中心とした律法として与えられており、真新しい内容ではありませんでした。しかし、《モーセの遺言》を聞いたのは、旅の途中で生まれた子ども世代、孫世代です。出エジプトを経験し、律法を与えられた人々は、旅の途中で皆、死に絶えていました。旅の途上で生まれた新しい世代を前に、モーセはもう一度語り直しました。

「聞け、イスラエルよ。」(4節)この呼びかけは、親が子どもに大事な話を語り聞かせる時、名前を呼んで座らせ、目を見て話をするのに似ています。呼びかけているのはモーセですが、本当の語り手は神様です。イスラエルは、神様に名を呼ばれ、面と向かって座らされ、これらの言葉を聞いているのです。教会は別名《新しいイスラエル》と呼ばれます。私たちが教会の礼拝に集められるやいなや、同じように神様の前に座らされ、「聞け、イスラエルよ。」と呼びかけられます。

「我らの神、主は唯一の主である。」(4節)彼らの先祖は確かに経験しました。神様が紅海を分かち、寝ずの番をして戦い、救ってくださったことを。しかし、彼らはあっという間に目に見えるものに心を奪われていきました。いつの時代も、私たち人間は、神様の話をどれほど聞かされても、奇跡のような出来事を経験させられても、目に見えるものに頼る方が確かに思えるのでしょう。モーセは地上を去る前に改めて語り直しました。我々の神は、エジプトから救い出し、旅をお導きになった方お一人だと。

「心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。」(5節)ここの「愛しなさい」を「愛するだろう」と訳す聖書があります。それは、神様がイスラエルをエジプトから脱出させた、という事実が先にあるからです。神様を愛さなければ救っていただけないのではなく、既に神様が愛し、救ってくださったから、私たちが神様を愛するし、愛さずにはいられなくなるのです。

「尽くして」を元の言葉で直訳すると「全てで」です。身を削るようにして神様に仕えらる

というよりは、神様に全面的に信頼して生きなさい、との命令です。心も魂も力も含めた体全体、人生全体を神様に抱えていただいているのだから、何が起きても、神様の愛の中にいるという変わらない事実の中で生きなさい、と命じます。

さらに、これらのことを子供たちにも語り聞かせよ、との命令が加えられます。ここにおいても、神様が愛してくださっている、という事実が先にあります。家に座っているときも道を歩くときも、寝ているときも起きているときも、ただお一人の神様が子供たちを愛し、「あなたの神」として共にいてくださいます。

昨日で阪神・淡路大震災から20年が経ちました。震災があった朝、私は奈良で揺れを経験しました。一生懸命努力すれば良い未来が手に入る、そう信じてきた人生観が崩れ去った時でした。その後、教会に導かれ、「いつまでも残る」(コリント人への第一の手紙 第13章13節)という御言葉に捉えられ、洗礼を受けました。神学校在学中には、東日本大震災を経験しました。かつて語られた《モーセの遺言》が、今、この地に響く言葉として、力をもって立ち上がってきました。震災においても被災地の中でも、「あなたの神、主を愛しなさい。」と命じられる時はいつも、神様の愛の事実が先にあります。あらゆるものが崩れ去ったとしても、神様の愛の事実はいつまでも残ります。

この世界にも、私たちの人生にも、分からないことの方が多し。震災のように、神様どうしてですか、と激しく問い正したくなる出来事が起こります。しかしそれでもなお、分かっていることがあります。かつて寝ずの番をしてイスラエルをエジプトから救い出された神様が、人の姿をとり、この地上に来られ、十字架につけられた、ということ。その後、死から復活し、教会を立て、震災後を生きる私たちを聖餐桌の周りに座らせて、「あなたの神、主を愛しなさい。」と語りかけておられる、ということです。

本当に大切なことがあります。「聞け、イスラエルよ。」「あなたの神、主を愛しなさい。」「子供たちにも語り聞かせなさい。」分からないことは多い。しかし分かっていることが、今ここにあるのです。私たちに託されていることがあるのです。

(記 本庄侑子)